

ふたごの一年生・・・その入学準備

これから入学準備シーズン。たくさんお金も必要ですが、楽しく準備してあげてください。きっと、ふたごちゃんたちにも楽しさが伝わります。

こどもが入学を控えると、親は少し忙しい。

ふたごちゃんの場合は、わざわざふたりを違う学校に入学させる場合は例外として、同じ学校に同じ学年のこどもを入学させることになる。私には、予想外にさまざまなことが降りかかったので、ここでは、我が家のふたごちゃんの入学に際して起こった種々のケースを、参考としていただきたく列挙する。あくまでも、我が家の場合、我がふたごちゃんが通う学校（市立公立校）のケースなのであしからず。

1. 入学前検診

11月下旬に、新1年生を対象に身体計測および健康診断が行われました。親はこどもが検診をしてもらう間、別室で待機しています。

内科検診の際、医師からの質問が出た場合に備え、我が子の内科検診の番が回ってくると、こどもと合流するようになっていました。

こどもたちは、4人一組で来年6年生になるお兄さんお姉さんと一緒に、眼・歯・耳鼻科など、順に回ります。

こどもの出席を申し出、私ひとりでふたりの子を連れているのを、内心「見ればわかるか？」と思いながらも、一応、不審に思われぬよう「この子たちはふたごです」と断ってからこどもを係りの先生に引渡します。

内科検診の教室の前で、「この子のおかあさんは誰ですか？」という新6年生の女の子に言われ、進み出たまではよかったのですが、ひとりしかいません。ここで、はじめてふたごが別々のグループであることがわかったのです。案の定、少し後、順番を待っている上半身裸の子の後ろで立っていると、「この子のおかあさんは誰ですかあ！？この子のおかあさ～ん！」と男の子の声。もうすぐ順番が回ってくる裸の子を置いて、もう一人の子の元へ走らねばなりませんでした。

グループが分かれていることが判明したときに、お兄ちゃんの担任の先生がその場におられたので、ふたごたちのグループが離れていることを即伝えたので、先生がちゃんとフォローしてくださり、それ以上の混乱は起こりませんでした。気が利かないと、学校側もこども本人も、ちょっとしたパニックになっていたでしょう。

これはこの学校の入学前検診の進め方です。検診する項目は公立校なら共通でしょうが、システムは学校ごとに違うでしょう。ちょっとしたことにも、気配りや予知能力を駆使して対応してください。

2. 入学式

入学式には是非、二人以上の大人が付き添ってあげてください。

一学年に複数クラスがある学校では、ふたごたちは別々のクラスに分けられることが多いようです。そのクラス分けは入学式当日にしかわかりませんでした。式の終了間際に、担任の先生の名前が発表されました。そこで、筆記用具が活躍します。まず、ふたりの在籍するクラスを覚え書きし、先生の名前もササーッと書き留めておきます。でないと、すぐ忘れます。

個人情報保護法のお陰で、新一年生の名簿や先生名の一覧表などは、出し惜しみされる傾向にあります。親も緊張しているので、ふたりのクラスや先生名がごっちゃになるのを防ぎましょう。帰宅してから、壁にこどもの名前、クラス、担任の先生名を書いて貼っておくと、その内覚えられます。

入学記念のクラス写真を撮影される場合は、必ず、どちらのクラスの写真にも写ってあげてください。クラスが複数ですと、待ち時間節約のために、1組が撮影の間、2組は教室に入って教科書をもらう・・・なんてこともあります。教室に入ると、名簿順にすわらされているこどもの横に並ぶように言われました。こどもの隣に来るお家の人がいなくても、担任の先生はそれなりに対応してくれるのですが、ふたご故に、ひとりにかかりきりだったから、もうひとりのそばについていられなかったという、哀しい思いをこどもたちにさせないようにしてあげられれば・・・と思います。

うちは、入学式には、あらかじめどっちの子と行動を共にするか担当を決めまてから、夫と私のふたりで参列しました。こういう場合たいいおかあさんが取り合いになるので、ちゃんとこどもには前もって納得させておくのも忘れずに。写真撮影の順番を先生に聞き出しておき、時間差にもばっちり対応しました。こどもたちは、何の不満もなかったようです。

3. 運動会

運動会や学芸会はふたごたちだけの行事ではなく、同じ学校に通う兄弟姉妹がいれば、その子たちのイベントでもあります。ふたごたちだけにかまけるのではなく、あくまで兄弟姉妹平等に応援をしてください。

ふたごたちが運動会で違う色だと、同じ種目で競争することもあり得ますが、どっちも平等に応援しているように見せるよう、最大限努力してください。50メートル走の1コースと2コースで隣どうしで走るといふ最悪の状況も、想定内としてください。ゴール後のフォローが特に大切です。

走る順番（何番目の何コース）とか、玉入れをする場所が運動場のどの辺り（体育倉庫の前とか鉄棒の前とか）なのかという細かい情報を本人たちから聞き出し、メモして持参しましょう。同じ学年でふたりの出番を見逃さないようにするのは、結構難しいです。どちらかという、ビデオやカメラをあきらめて、肉眼で見ることに集中したほうが失敗がないです。

最終的に、赤組が勝ったとか白組が勝ったとか優劣がつくのですが、団体競技なので個人のせいではないことを理解させ、さわやかな気持ちで運動会を終わらせてあげてください。

4. 参観日

参観日も大変です。

お兄ちゃんが1年生の最初の参観日の先生の最初のセリフ・・・

「さあ、みんな、授業をはじめますよー。お家の人来たはるかなあ？今のうちに手振ってねえー。いい？ハイ！では前を向きましょう！」

ふたごでこれをやられると、親ひとりでは分身の術が使えないとアウト（帰ってからふた

ごたちに「いいひん（いない）かったやんか！」とぐちゅぐちゅ言われる）であると思ったので、ふたごたちの参観日の第1回目は夫も出動し、最初から1年生のクラス二手に分かれ、その後お兄ちゃんのクラスへも回る、両親3クラス回遊制をとりました。

同じ教科・同じ単元が参観日で公開授業となることも多いかと思いますが、なるべく先生個人や教授方法を比較しないように努力しましょう。密かに優劣を感じていても、こどもには絶対に悟られないようにしましょう。

あなたの先生も好き、あなたの先生も好き、と両方の先生を平等に扱いましょう。私は入学してしばらくの間は、「今日、〇〇先生元気やった？△△先生も元気やった？」と尋ねるのを日課にしていました。

5. 宿題

これはまた、日々、親の頭を悩ます問題です。帰宅して、おやつを食べた後、サッサと宿題にとりかかる子でも、ふたりいるだけで親の手間は倍増します。

まず、同じ宿題を持って帰ってくる場合、テーブルの右端と左端というように、同じスペースでやらせないようにすることを提案します。1年生の宿題は親が見てやることも多いと思うので、できれば自分がひとめで二人分の宿題に目が届くようにしたいという“親の利”と採ると必ずや失敗します。同じプリントであることを発見し、答えを教え合います。どちらが早くできるか競い合うと、字がめっちゃめっちゃになります。

クラスが違えば宿題の箇所も違ってきます。今日の宿題は、なんか見たことあるゾ！という場面にはしょっちゅう遭遇します。プリントの枚数が違うことも多々あります。基本は“きみはきみ、ぼくはぼく”を貫くことです。

できるだけ、はじめから別の場所で勉強をさせるようにすると、それが普通だということが習慣化し、割合うまくいくと思います。うちには、いわゆる学習机はお兄ちゃんの分しかありません。だから、ふたごたちは食卓と小さな折りたたみ机で宿題をやっています。親の目が離れると、特に男の子は、消しゴムに鉛筆で穴を開けてみたり、余白に絵を描いたりするので、いつまで経っても宿題は終わりません。あっちの子にもこっちの子にも、鋭く眼を光らせて監視体制を整える技術を身につけましょう。

6. 成績

これは年に3回程度ですが大問題です。これこそ、ふたごの足並みは揃いません。お互いに公表し合って、切磋琢磨し合うのが理想だと思いますが、今のところ、我が家では兄弟間で成績を見せ合うことはしていません。切磋琢磨とはほど遠く、相手の自分より劣っている箇所を見つけてのしり合うことが目に見えているからです。

うちのふたごちゃんの場合は、おかあさんにだけ見せて、内緒にする方が効果的のように思っているので、現段階ではコッソリ方式にしています。

三倉茉奈・佳奈ちゃんも、成績に優劣があったとか。一緒の大学に行きたかったから、ひとり寝ている間にこっそり勉強して追いついたって、何かの折に言っているのを聞いたことがあります。

うちは成績のいい方の子がやっとなら“ふつう”なので、お話になりませんが・・・。

7. 日常のトラブル

おそろいのお洋服、色違いのお洋服を着せると、先生たちは最初、少々混乱されます。でも、おそろい・色違いは可愛いので、親としてはつい着せます。どうせ、体操服はみんな同じものです。見分けていただけるよう、多少の訓練は必要です。

4組の子が5組に遊びに行き、授業が始まっても自分のクラスに帰らないとか、友達から「どっちがどっちかわからん」とか「似てる似てる」などと言われることは必須です。からかいの対象になるやも知れません。「ちょっと、ちょっと、ちょっと、やってみて！」とリクエストを受けることもあるでしょう。それらのことをマイナスにとらえることなく、全てプラスにとらえてあげてください。「そう言われるのってな、ふたごってええなあってみんな思ってるからやで！」という一言で乗り切っています。

先生やおかあさん方にも、「どっちがどっちかわからなくて、ごめんなさい」とよく言われます。ふたごを生んでから飽きるほど耳に入る言葉ですが、どうか気を悪くしないで、ニコニコして「いいんです。気にしないでくださいね。私も時々間違うんですう」と言ってみてください。相手も少しホッとされます。

よく、ふたごが入れ替わって授業を受けるとか、代役を立てて悪さをした・・・というのが経験談として、もしくはお話であるのですが、まだ1年生なので、自らクラスを入れ替わって授業を受けるほど頭は回らないでしょうし、勇気もないでしょう。

8. その他

その他にも、ふたごであるが故に起こるハプニングやトラブルは、挙げると限りがありません。

同じ家にいつもふたりで帰ってくるので安心かと思いきや、仲が良すぎてかえって車にぶつかりそうだったり、どちらか一人が欠席すると「ひとりでちゃんと帰れるかしら？」とものすごく不安になったり。

ふたごだけで先生に早く名前を覚えてもらったり、果ては校長先生だって「ああ、あのふたごちゃん！」と言ってくれる程、やけに目立ったり。

それに、PTAの役員は1学年で2回しなければならないんだって！

大きくなるにしたがって、自分たちだけで対処できることも増えてくるでしょうが、1年生になりたては、新しい豪華客船に乗ったようで、いっぱい楽しいことを、新しい人間関係を築きながら経験していきます。団体行動も多く、規制も多いので、自由気ままというわけにもいきません。でも、ふたごだから極端に損することはないだろうし、得することもないだろう・・・つまりひとりひとりが1学年にふたりいるという考えていけば、親も子も乗り越えられるだろうと思います。

ぜひ、楽しい小学校生活を！